

非暴力直接行動

NO
155
5/15

発行・WRI(ウリ)水田ふう・向井孝・大阪市あべの区旭町1-6、1-1307(647-4089)

WAR RESISTERS' INTERNATIONAL JAPAN

年間購読料カンパ 千五百円以上

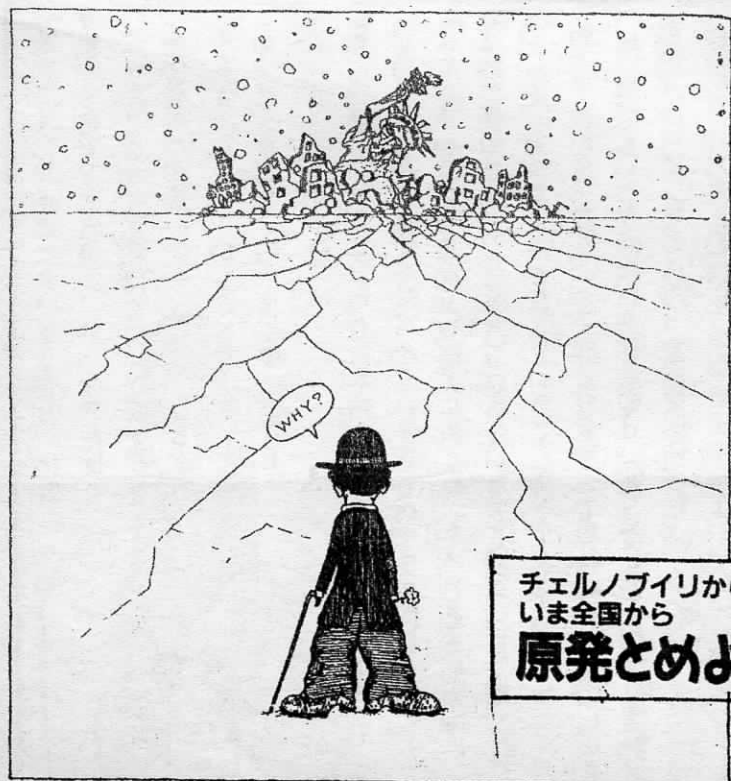


とうきょうにまんねん
東京23万人の意思

ふうふふふ

ニューウェーブと既成

- 4月23・24日の「原発とめよう」東京行動の印象は？
- 何というても、二万人も集ったというところ。
- それから、思わぬ笑うてしもたんが、警官視庁発表では、六千二百。
- K寮がふだん、どんなにみえすいたウンを平気でついたりとかというエエ目本や。
- 一万んどうやろかーと思ってたんが、あんなに集まるとは。
- 日比谷公園から銀座を通って東京駅の先きの公園まで4キロほどのデモコースが、三時まえに出発した先頭が四時すぎに終点について、まだ最後は出発してないありさまでほんまにスゴかった。



チェルノブイリから2年
いま全国から
原発とめよう1万人行動

in東京

振替 大阪一三二七三七 ウリジャパン

■ 二万人という数は、時勢の波というか、大きな流れが動き出した
いう感じやな。

■ 時勢の波とは、「ニューウエーブ」のこと？

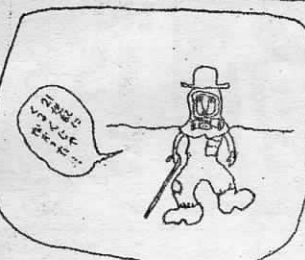
■ うん、そういわれる現象となつてあらわれてるわけやけど、それだけやない。

■ 九州共同行動の中島重二郎さんが、高松の四国行動の総括で「……今回の凶いは、一九七〇のハロ耳代の反原発運動（オールドウエーブ）の延長上に花開いたものではなく、両者の間には大きな断絶があること、今回の凶いが発展していく過程のなかで、これまでの流儀・原則・運動とのパターン等との凶争があり、その介入を阻むことによって発展することができた……」というふうに書いてはるけど……

■ その「両者の間」の大きな断絶……は、まあそうなんやけど、「介入を阻むこと」によつてつまり、オールドを排除、または絶縁したんで、「発展できた」とまで云い切つてしまつて、眼先の小さな現象にとらわれすぎてる、と思ふんや。

とくに、向題の本質……なんて、万人も東京に集つたかーの谷がエライ単純化されてしまつて。

■ けど、うちらも、既成の運動観、そのやり方・パターンを変えんとアカンというて、10・26共同行動デーンなんかでは、なんどもやり合つてきたやないの。



おしらせ

5月22日（日）

11時 紀の国屋 大まなてしびの山前に集まる

（梅田）阪急のとき

■ うん、そのことや。そしたら、10年前から同じことを云い、やつてきたぼくらの動き方が、高松ほどこにかんぞその10分の一ぐらいにも、なんでもひるがれへんかったんか、いうことや。

■ そうすると、何であんなに盛り上、たんかーいうのは……

■ つまり、オールドの介入を阻んだ……ということもふくめて、その他、いままでのプラスにもなりマイナスにもなるいろんな要因が、最大にみん、もっともええ方向に、相乗的に作用して、それが波にのるいうことやるとつ然みたいに「二万人」をつくり出した……ということや。

■ そやから「高松」が、何よりもそこで具体化し、表現したものは、歴史というか時代の流れが変り、もう後もどりのない運動の大転換がはじまつたという「大信号」やった。

■ それがオールドにどうって「ニューウエーブ」の意味やとすると「ニューウエーブ」とどうって「二万人」の意味は……

4 都市運動の出現

■ ニューウエーブというのは、つい数か月まえまでは、まるで反原発には無縁で、いわゆる市民運動にも関心がなかった都市の人たち……とくにチエールノブイリ以降、深刻さの極限を資料を駆使して伝え



にいきます。

法務大臣の京都の選挙区にどうもき 2

▼ 本紙購読希望の方には、年商から千五百円を、()でつくれば送付用封筒へ宛名を「G.M.」とあて、
ご自分の「記入して」お申し込み下さい。お申し込みしたの手は、切とてまともて送つて下さると「G.M.」です。

3

る広瀬さんの著述や講演活動にたまにまみれて、もうじつとしてはおれんとおもい出した個人の主婦たちがいっぱい出てきたというところ。

■ いままで運動が組織や活動家といっしよにする運動だとすると、この反原義ニューウエーブといわれている動きは、一人一人が、自分が動かなかったら原義は止まらん。「私と同じようにみんなが立ち上ったら止められんはずはない」「きつと止まる」と確信する人たちが一人一人のさざ波のような、しかしとても熱心な動きが、つくり出した大きなうねりや。

■ そやから、この波は「やらねばならん」という政治課題からきてるんやなくて、地球が危ないというモレーツな危機感を、バネにしているから、どこに、どんなふうにも飛び火するか、予測がつかへん。あ、いくちゃんも去年の9月に広瀬さんの話を聞いてからやねん。話を聞いて帰る時、電車に乗ったら、そこには人々がなにげなく座っていて、笑ったり、話したりしている。この人たちが、なんでこんなに香気にしてられるんや。世界は危機に直面してるといふのに、って、思ったんやて。

それからや、いくちゃんの目の色が変わったんは。

■ 広瀬さんの本を百冊買って知り合いに配る。甘藷さんの「まだ面にあうのなら」を三百冊買って、著名人名本を買ってきて訴える。電気料金を不払いする。となり近所の人と寄りあってビールをつくる。こんなふうに、話を聞いたら即、自分一人でも出来ることをみつけて動きだす。というのは、運動の本来的な姿だね。

★ 小原さんとその役割

■ 別府の小原良子さんの活動も、ニューウエーブに不可欠やったんうちがう。

■ うん、うん、広瀬さんによつて一人一人はらに動き出した女たちに、小原良子さんは「伊方原義調整実験があぶない」という、眼前の切実な危機を、身近な問題として引きつけた。

それを、いわば自分と同じおもしろい無数の小原さんのような女たちに伝え、そのエネルギーを引き出し、彼女ならではの能力で全国ネットワークをつくつて、一きよにニューウエーブを顕在化したんや。

■ ニューウエーブはやっぱり、オールドウエーブと断絶したところから出てきたと中島さんがいうのも当てるわけや。

■ いや、中島さんのいう断絶とか

対立とか、また小原さんの意図の如何にかかわらず、ニューウエーブはそれそのものとしてオールドウエーブとも手をつなぶ、あつさり、のりこえるもんやっただーというべきやろ。



★ この10年と私たち

■ それ云いまわしただけのことと、どないかがうの。

■ 10数年前のことやけど、ぼくらが反原義運動にはじめて接したとき、それはほかの運動に比べて一番開放的で、運動してる人たちも、みんな素朴で新鮮—い—う気がしたやろ。

へ— こんどウリで出したパンフ「女と反原義」は、当時のふう子さんの、おもしろいなどをよくあらわしたものでやけど、それが、ここ数年のうちに、出てきた女のひとたちの熱心さやひたむきさともまるで相似してるのにもびっくりするし。

■ おいちゃん、そのころしきりに「60年のアンボ、70年のベトナム反戦、そして80年代は反原義や」と云うてたなあ。

■ 70年代末の運動の沈滞低迷を打ち破るものとして、歴史の波として、反原義運動のうねりが、すぐ高まってくる、とぼくはほんまに確信したんや。

すでにヨーロッパやアメリカに現われてたように、個の多様性を保証した、楽しく明るくにぎやかで、党派

やリーダーの引きまわしのない運動として、「反原義」は、80年代闘争のスタイルを創り、先駆けをきりひらくやろうと。

■ ところが、なかなかそうはいかん



かったなあ。5年以上も手廻はおくれて、ようやく……

■ 都市の運動として、10・26反原義力デーがつくられたんは78年。「現地」周辺だけでほとんどひろがらへんかった運動が、内国のスリーマイルを契機に、労働運動その他の活動家たちの関心をあつめるようになったものの、その一時の高揚は、二耳とつづがへんかった。

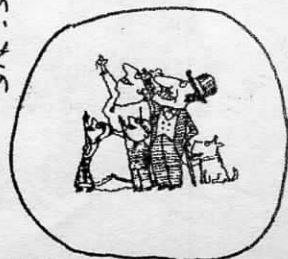
■ 「新鮮」で「熱心」だった人たちも「運動」になれてくるし、あたしにも、最初の「目がさめたような」運動の「よさこい」を楽しむこともマンネリ化してくる。

■ そして、運動であるがぎり、反原義運動もまた既成の運動組織を骨がらみにしているへ統一と団結的思想と体質の影きようをどうしてもというべきか、やはりというべきか、免れることができへんかった。

■ 例年の行事・10・26反原義力デーの共同行動が、みるみる沈滞し、無力な行事になつていったんは、それや。

■ 「四国宮松」をみてわかるように、運動の沈滞をきりひらく可能性は、いつでも、新しく参加してきた人の、多様な創造性と発意のエネルギーなんや。

■ ところがそれを受けとめる運動側は、未経験ゆえの新鮮な感動を、フラスとはせず、新しい参加者に対して、いままで通りの、それゆえ一度も成功したことがないことでもう証明されてる陳腐な、「



運動の流儀や原則・パターン」の型にはめこんで、その可能性を押しつぶしてしまう。

■ ぼくらは10年前、それまでの反原素がどうしてもつけれなかった都市での運動を「不払い連」でめざしたんやけど、そのハデな「宣伝戦争」が面白がられながら、やっぱり「現地主義」に対する「異端」で、監視されてばなし。

■ 「なにがなんでも原素に反対する女たちのグループ」も、都市に根をおいて活動するがぎり、やっぱり、おんなじことで少数派をぬけ出せへんかった。

■ 10年早かったんや。

■ いや、いまオールドと呼ばれるものとして、それをふりがえ、たら、ぼくらのやってきたことは、いまこの頃の状況を準備し、ニューウエーブを受けとめるために、必要な捨て石になった。
(時代的)

★ 歴史(状況)の流れと変化

■ ところでこの10年、反原素をとりまく状況は、たとえば、石油価格の高騰から付着へ、電力不足から余剰へ、とくに99年のスリ・マイル、86目のチェルノブイリ事故での、日常生活に及ぶ食物汚



『モダン・タイムス』

染、地球規模での危機感のひろがり、脱原素へと、ゆっくり大きくうごき出しながら、しかも、いままでは、ぼくらの反原素運動の小さな盛衰とはほとんどがかわりなしに、微妙にいつも組織していた二つの波が、いまようやく二にまで重なりあひ、力を重ね、エネルギーをあつめて、さらに大きな波・歴史をつくり出そうとしているーといえる。

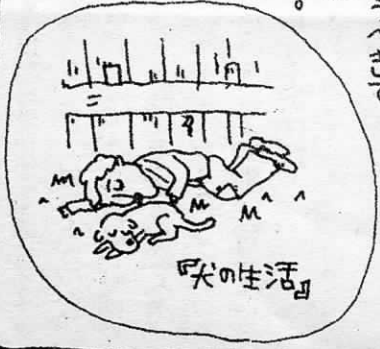
■ 左瀬さん、そして小原さん、へそのうしろのたくさんの分身の登場は、その波を二重、三重に相乗して、いよいよ高まるものやし、何よりも、その波を表現するもんやね。

■ 高松で、ニューウエーブがまるで突然出現した、とみえるものは、まさにこの経過を示す以外のものやない。

■ さやから、つけ加えていうたら、東京行動の二万人が意味するもんは、ニューとオールドとの向の二だわりや区別なくものを、なんでもかんでものめこんで、高松をも更にのりこえてしまった、ニューウエーブの波のいきおいやーというべきで、そのようにとらえへんかったら、これからの方角を規定めることはできへん。

■ さやけど、「高松」と「東京」とは、やっぱり、大分ちがうような気がするけど。

■ 高松では体が自然に踊りだしているような充実感というが楽しさというが、「自分もやった？」という



『犬の生活』

自足感をみんながもったーと思うねん。

■ それと比べたら・東京は日比谷公園のいさとりどりの光景と・二万人デモ・ほんまにスゴクツタという強い印象の割には・はて・自分は何をしたんかい・ナーみたいなこと・帰ってみると・話の種があんまりあれへん。

■ それから・2・は高松のあとに・3・30があつて・「日高」が勝ったやろ。あんとき・おいちゃん・ヨこれでは・きり潮目・潮の流れの転換点」が変った・「うって叫んだけど・この3・30と4・24東京と・どうつながるんやろか。

■ うん・そこや。「高松」と「東京」の間に「日高」を入れて・それぞれの現象を考えてみると・これからの反原発運動がかかえて・いる「問題」がよう判る。

■ 日高の通協総会は・「事前調査受入案を」密議もせず「廃案」という・味方もエツとびっくりするような勝利やった。

■ なんで勝ったんか・や。こんどは引伸しもできずに敗けるかもしれん・いう見透しやったのに……

■ オールドの紋切型でいうたら・「いままで積み重ねた反対運動の成果」いうことになるやろけど・思いもかけなかったということ・でなえは・や・ぱり・時代状況の「上げ潮」にのったというほかないで。

■ ぼく・「廃案」というのを聞いたとき・すべ・あのベトナム戦争最後の日の感動を思い出した。

ベトナムは・敗けても敗けても戦いつづけることで・

敗けてしまわなかったんや。アメリカは戦いでいつも勝ちつづけながら・最後に撤収すること・で遂に勝つことができた。アメリカがサイゴンを引揚げる最後の日・ベトナム軍は・引揚げさせるのではなく・追いつくことによって・勝利を決定したんや。■ その例でいくと・日高は・反対運動が「バツ」たら・いつのまにやら上げ方で・とつ然向うが「まだい」る問題は残っている・にしても「手を引いて敗けてくれた」というわけか。

★都市と現地ー3・30・日高ー

■ それで・2・12と3・30との関係へつながり・いうこと

になるけど・現地の運動は・どこでも大い

組織主催
型や。

■ 3・30の

■ あの日・ウリ

日高もそうやったま。
にも九廿と下関から二人来て



前の晩から泊って、いっしょに行ったんやけど、四国高松の雰囲気
をイメージしてた二人には、だいぶ調子狂ったやうな。九州から日
高にまで、わざわざそのことのためにだけ来るなんて、やつぱし、
2、3かあったからや。

■ところが、雰囲気はえらくちがった。

■こぶしをあげて、いっせいに「ナントカ・カントカ・ソーゾー」
ばかりやから、ちやうど雰囲気変えようって、うち「エジヤナ
イカ・エジヤナイカ」をつい使ってやりだしたんや。アカン。
「ナントカ・カントカ・ソーゾー」も一瞬やんだけど、あたり一面
シラーや。

■それどれのおもいで駆けつけたのに、まるで出番がないとい
うか、なかなか自分の発意で動くことがむづかしいんやね。

■日高では、まあいうたら、動員やなしに集った人のそれぞれの
おもいやりが、せまいところに内じこめられて、出口なしで叫んで
るみたいになかんじやった。

■でも、そんなことも何もかも、勝ったんで吹きこんでしもて、
みんなだきあったり、手をつないだり涙ながして、ウーッとみん
な感謝のうづやつてんけど……。

■4・23東京での「女のまつり」の夜の交流会の中でも、能登
や青森から、古い運動との間にいろいろアサツがあることを訴えてた。

■つまり、みんなが高松ではつきり外たように、「既成運動」の
フツを徹底的にとりはずしたら、どんなにのびのび、自由に楽しく
面白くしたむきに、いま多くのひとたちが反原発にあつまってくる

か。

え。その
状況への接近、あるいは変化

の可能性は、3・30の日高にも
やっぱり、あったもんや。

■正面に対峙する
圧倒的にオールド

主部隊は、
スタイル

やったけど、そこからみだした何人かが、だんだんつれも
う、高松スタイルで側面攻撃をつくりだして……

■この高松スタイルを、その意味を、深いついで飲みとり、オ
ーレの人たちが自分の運動のなかの力とするところができるとか
が、日高だけでなく、現地の運動の課題と聞かうや。

■そのことと関連して、もうひとつ、なおその上で、日高「漁協
総会での勝利と廃案」を、どう受けとめ考えるか、や。

■「高松」以降、報道がいっぱい出て、マスコミに原裝の情報が
頻出するようになったけど、その論調が微妙に変化してきたという
気がせえへんか。

■それが世論にどう影きようしてるか、日高にどう関係したか
は、はっきりわからへん。

けど、あの「廃案」は、「反原発運動の風向きが、はっきり変
った」という狼煙やと、ぼくは思った。



逆風がたま、ただけなく順風が吹き出した。

■「廃案」の勝利は、ベトナム戦争でのアメリカの撤収作戦の似てる。としたら、いま、最後の「追い討ち」によって「勝利」を決定させるチャンスや。

■強調するために、少く誇張を許してもらおう。いつも受け身で抗議反対阻止に終止してきた現地の運動が、ここで順風を力に、積極的な攻撃「追い討ち」に出るのには、いまだごん自己転換を迫られているが、この3・29日高にあらわれた典型的な反原発運動の状況と可能性や。

★ 4.24・東京。デモのやり方

■ だいたい、横道にそれたけど、まとめとして、4・24東京・二万人……。

■ 二時半からのデモで、いざ出発ゆうて県道に並ばされて30分、一時固待ってんのに、前がなかなか出へん。見に行ったら、一団を送り出して、ある程度固かくが出来たら次の出発させる。

■ 警察が指示してそうさせるわんけど、いっしょになって規制してるんや。

■ あの日は予想以上の人数やったせいか、警察はまるで手不足ってかんで、おまわりがまばらにしが立ってないことがあつたやんか。

私ら、すぐに道いっばいにながらやる。

すると、デモの整理係らしい人がきて、もっと片側によって下さいといにくる。

■ 「デモ指揮」は、警察に名を届けて責任もいざのとせ取られるし、注意してまわるのは当然やけど、こちら側からいうたら、こんどめたいな、市民に共感とつよい印象をよえ、はねかえってくるものを自分も潔しむ性格のデモは、まあパレードめたいなもんや。

■ うん、よびかけのほうにも、デモやなくて、パレードって書いてあったよ。

■ としたら、指揮者は、警察に対して責任を果してまっせ、いうポーズだけとって、デモをのびのび、自由にできるような役割に徹したらエエ。

■ 警察の指示通りにやろうとしてるけど無能で、デモをよう統制しきらんーと思われたら、最上の指揮者や。

■ うちらは指揮がきいてきたら、それをやるもよし、破るもよし、指揮とコングビになって思うとおりのデモができる。万や。

■ 原南連のさくん、うちとふと目が合ったら、「云うだけや、云うだけや」と片目つぶって、「もてま、と片側によりまして」と云うてたよ。

■ そういうんがエエ。

■ 去年の10・26から、この東京集会をよびかけ、準備してきた人



たちの苦勞は、サリや並大抵やなかったやうう
けど……

■ 世話役の責任と役割は、前日までや。

もう世話やかと。一切合財、その日集、
てきた人に仕せる。あんたらが主人公でつく
って下さいということに徹底する。

■ まあ、その口でいうほどカンタンやない。

■ 「高松」では、はじめから、あの三ヶ条の申合せ①この行
動は参加者一人一人の意志と責任において実施されるものです。②
行動全体を指揮・統率する団体や個人はありません。個人・グルー
プ自らの正義と判断で行動して下さい。③「非暴力」でということ
が、神経質なら強い強く、はじめから打ち出されていた。

■ 「東京」と「高松」と、表面にあらわれた光景は、注意深く観
察せんと誰もが気付かんぐらいの、ほんのちよつとしたちがいやけ
れども、その延長線では、天と地のひらきがある。

■ そのひらきは、いうたら、最初に「三ヶ条」をみくか、おがぬ
かなんや、と思う。

■ それをや、短絡的に、反原発運動だけに限定して云うたら、「
都市と現地」のちがいがやし、運動一般で云うたら、「ニューウェ
ー」とオールドウェーのちがいがやし、ぼくらのことばでいうた
ら「自由連合」(註)と「統一と団結」のちがいがやしということにな
るやろ。

★ (註) この場合の「自由連合」とは、イオム通信31号(87/15)



での論旨のように、「統一」の対立物ではなく、「後者」をも包摂
するものやから、「現地」も「オールド」も前者と対立するもので
はない。

★ (付注) 4・24東京では、「ちがいを内包しながら、ほ
んどそれが表面にあらわれない、稀な一例を現出したが、それは
もちろん「包摂」しているからでなく、状況、つまり「上げ潮」の
勢いがつくり出した「ゴツタ蒸」の成果や、たと思う。

付記

えらい中途半端のまま、相談の上これで話を打ち切ります。
もう「結語」の前提となることは、大体しやべつてるし、だんだ
んリクツぽくなってきたのと、さらにそのリクツで、七つも八つも
のちない、豊かな示唆をもつ「4・24東京」のことを、ほんの二つ
三つの原理的意味だけに割りきってしまいそうな余白しかないこと
で……

つまりこのあとは、あなたが勝手に結論して下さいということ
ですが、「あまりにも反切れトンボや。何を云おうとしているんか、
これでは判らんこと云う方は、「3階」へ三三三時間おそびにきて、
わたしらふたりの会話を加わってもらうたら
エエ……と。

予告電話(03・647・4089)があれば、
タコはんといパイぐらい用意して、きぐ
すぬいてつ・歓迎します。



たまげ

▼4月1日　〇くんが四国の友達を呼んでつれてきた。なんと、おとし3月30日、日高でナベをたたいて踊っていた人。それまでは固いシユフシユコール一点張りやったのが、高松ではじめて「えじゃないか」を聞いて、すっかり高松スタイルがやみつきになってしまった。それで日高にまで来たという。「おしごとは」と聞くと「公務員」やて。

▼4月2日　ウリ事務所が立ち退きをせまられて、荷物整理。ほとんど本や、ビラや紙ばかり。向井さんはどういづのにもすごく執着があって、今迄よからきたビラ一枚でも絶対すてへん。たまる一方や。でも、ここにはとて、立ち退きダンボール60個分捨てた。

▼8日　かたつむりの会。6月から講座再開しよう。いまの法務大臣林田は、京都出身だから、選挙区へ、どうがハニコをおさないで。5月22日にビラまきにしようーと決まる。

▼11日　支援連ニュースの発送。

▼12日　虹の会。ホッピーがハラハラニュースの編集を交替したいという。そのあとどうしようか相談会。

▼19日　去年の東京の最終口頭弁論。2、3の時、虹の会がデモを見て、虹の会のファンになつてくれたハ木沢五月さんたち埼玉劇団どぐろが島の内小劇場で講演。応援で見ていく。ところが観客は、おいちゃんとか、〇くんとかそれにHさんの他はたった

▼おしらせ　6月16日(木)

88年　かたつむり連続講座才一回　話し手　玉光順正さん
本林の宮　市立労働会館　6時半　三百円です。

三人。でも五月ちゃん、ひたすら私らのため、執筆してくれた。スタッフは全部で七人。みんな芝居達者ばかりやった。

▼22日　かたつむりの会。7月21日、27日の一週間、「ゆいま」を貸り切つて死刑関係の本をあつめてブックフェアをする。そのリストつくりと、「死刑と人権」の発送準備。

▼23日　2時すぎ東京到着。まず模索舎へ。パンフ「女と反原発」を納本。10冊ぐらひと思つたら、もっと売れますヨといわれて40冊。それから私は早稲田奉仕団の「女のまつり」会場へ。着いたらちやうど、大阪の女グループが出演の真最中。このわが女グループの「これっきりバンド」ひい気自やうしに、この日の出色やった。大入り満員の会場からヤンヤの喝采をあびていた。おいちゃん「どうしたら原装は止まるか」の分科会。サカが満員で、後書房の人たちが中心につくった「反原発資料室」あたりをウロウロしてたらしい。夜は、その資料室で、怪から出た本の著者荒井まり子さん石橋元子さんを囲む小集会に出席。

マリちゃんとは一度面会したきりだったので、すぐにそうとはわからなかった。もっとまんない頼やと鬼てたのに瓜むね頼やした。赤ちゃんの入ったお腹はちよつと丸く出ていた。9月が予定やとのこと。マリちゃんの話聞いて、獄中に囚われるーということの意味も、私はまだまだ認識不足や。たーと鬼た。獄中の人からの手紙を読むと、今日は脱立って小せ何百回とか運動の時間にはかならず走つてると書いてあつて、獄中の人は、私より毎日きつちり運動してるわ、なんて鬼つてたのよね。マリちゃんなんて、その中でも

とくに元氣印でどっぴった。そのマリちゃんか、「外に出たたん車に乗ればたちまち酔ってしまい、排気がスヤタバコの煙。パンや焼鳥を焼く匂いにも吐気をもちまわし、まともに街を歩くことさえできない程、足腰が弱っているのを自覚させるをえなかつた」というのだ。この獄中に耳というのがどれほどのものか、私は想像できなかった。いくら30分キツキツ体操し（具体的に）てもそのあとの時間、全く動くことも禁止されたら、せりや故障するものがあたりまえなんや。私ははいくら体操の時間をわづらわづらへんで、部屋を歩きまわったり、買物にいったり、しゃべり合ったり、なんやがなんやと体を動かしてる。その道は決定的や。とあらためて考えこまれた。

夜は、セグールプのみんなと富坂立ミナーハウスに泊まる。

▼24日 11時に日比谷公園。ここを思うところ、場所をとって、大阪勢は店を出す。Tシャツ・ステッカー・パンフ。私は自分のつくったパンフを持って、会場をぐるぐる物販する。三里塚のミヨちゃん・る古屋の田方さん。ピースボートのEくん。まあずいぶん知った顔に出会った。大阪にいて、大阪では出会わへん人ともよおけ出た。

私のパンフは百十部も売れた。

▼夜 支援連の事務所へ。

再留準備の会議。さいきんの支援連のあつまりは虹の会とおんなしで、人数が少いと聞いていたのに、この日は満員。25人くらい。帰り道、虹の会のように野次馬を認めるも、なんやなんや「どうしたどうした」と法廷の外での騒ぎをつくつくっていくことしか

ない。うわさがなくなったり、人だかりがしなくなったらおしまいや。野次馬の役割は、これからやーと思つた。

▼25日 九州からは木村京子さん、松下竜二さん、それから私とあらかじめ申し入れ書を東物所長に送って、大道寺くん益永くんに面会のため、この日に行くことをつけていた。私は、あれだけいいねいに書式をきちんとととのえて、ケイ紙千円も出して買つて、実印もおしたし、ひよつとしたら、とかなり期待していた。ところが看守10人ばかりに取り囲まれて、両手両足がつかれて、門の外に文字どおりホイサされてしまったのだ。それでー

「えじゃないか、えじゃないか、えじゃないか、面会させてもえじゃないか」とカネやタイコハンドマイクで騒いでたら、近所の人や子どもが見にまはされた。せうかくやからと、のくんだちの反藤純一（フナダ）を呼んだ。おまけに、さんか（サントマイム）マドンナは松尾知子の「再会」をひろう。まる

で路上は演芸会。

差し入れやのおっちゃんもやつてきて、「あんたらよお見たらええん

らみたいやないか。あの

看守たちは自分がとじ

こめられてるから、

だんだんじままでまが、

てきよるんよ」って声援。



▼27日 広瀬隆さんの話を聞きに行く。定員三百人の小ホールが超満員で、百人ほどは入場を断ったとか。同じ日の高木仁三郎さんの講演もやっぱり満員で、七百人もきたとか。たしかに、反原発はすごいいきおい。

▼28日 おいちちゃんと「ローザのワルツ」を三越劇場に観に行く。おいちちゃんは今つかしい名がいっぱい出てきたというけど、私の映画三度目やけど、時代背景も知らんし、回想シーンがはいるし、なかなかスジがのめなかつたけど、革命にいたむきに生きたローザの一生は、やっぱりスゴイ。あの死のあけなさは衝撃的やった。

▼29日 昼は、民さんたちのXデーコンサートに。パンクの音楽に耳がパンクしちゃうった。Xデー当日には、このパンクの迫力で街中にくりだしたいもんや。夜は、雑貨舎に砂田明さんの「女の平和」ワークショップに。どーもこの二、三日ゼンソク気味で胸がゴロゴロしていて、声を出すと、発作が出そうになるので、せつかくの、砂田さんの発声訓練に、口だけパクパクあけていた。

おいちちゃんは東京の、「いま天皇制を向う」フォーラム88へ。そのまま大山へいく予定が、私のせんで発作気味で中止。

▼5月2日 真夜中、とつ然蕎麦の新元博文さんとムガリのミオがやってきた。いまムガリはタイヘン。昨秋の沖縄国体期間中に読谷村で、田の丸を焼いたことに反発した右翼が、同村で糾弾大会を開いたらしい。それに全国から集まり、帰りに釜釜に寄って、こんどは、ムガリ道場を取り囲み、宣伝カーで出ていけーとや

ってるんやろうな。それがかれこれ一ト月にもなるといふ。ミオたちが突然大阪にきたのは、ムガリ道場の家主の奥おはは、もちろんミオたちの味方なんやけど、大阪にいる息子に、おとしをかけた。区長が土地を買いとろうとしているーということがわかったからや。あの午この午でやってくる右翼、梅子にむき、ムガリは、いま血を肉おどって、反撃のあの午この午を考えているようす。

6月11日 石川県庁へA.M.9時
たかちかた
私はいくよ！
能登に原発はいらない
6月大集合！

6月10日 P.M.1時
北電本社へ
九電力中唯一原発を持たない北陸電力へしかしナント電気代にはウランの先買の分が入っているがメニツをわけて建てるといふ能登原発が今年の12月着工されようとしています。一向一揆の伝統を持つ加賀です。いざ、われ民衆はせまじく、止めてみせよう。

宣伝

実録非暴力直接行動シリーズ3
女と大原栄

お申し込み

¥100-
¥300-
WRI-JAPAN
出版部